

事例番号 03

Keywords: 知的障害, 遠隔協同学習, 学校間, 掲示板, 国語, 総合的な学習の時間, 作業学習, 指導目標の達成

(1) グループウェア掲示板による遠隔協働学習 – ゴーヤープロジェクト –

(2) 事例の対象となる児童生徒について

ネットワークでのやりとりが理解できる認知レベルにある, 知的障害のある児童生徒

(3) 使用する機器と特長

本事例では, 機器ではなくネットワークシステムの利用である。

・ グループウェアサーバー FirstClassServer (株) FCM

本システムは, GUI により, 掲示板でのやり取りがわかりやすい。遠く離れた学校間でも, 掲示板を活用することで, 時間や距離を感じさせないやり取りが可能になる。この特徴を最大限に生かすことで, 遠隔での協働学習が可能になる。

(4) 使用したシステムを選定した理由

ネットワークを活用した実践を行うにあたり, サーバー管理の難しさを最大限排除しなければならない。また, 使う側 (クライアント) にとっても, わかりやすく, 楽しいものでありたい。その点を考慮した結果 FirstClassServer による遠隔協働学習システムを活用することにした。FirstClassServer では, カスタマイズによりログイン後のデスクトップ画面の背景を変更したり, Web 上の会議室を開くごとに楽しいメロディを流すことも可能である。

(5) 選定のプロセス

記入なし

(6) 個別の指導計画と個別の教育支援計画

記入なし

(7) 指導の内容

遠く離れたところにいる生徒たちが, 同時にゴーヤーを植え, その成長具合を報告しあう取り組みとしてすすめた。

本システムによる取り組みは, 見通しが持ちにくかったり, 集中が持続しにくかったりという特徴を持つ, 知的障害のある生徒に適した遠隔協働学習を模索する中で 7 年間継続してきた。

どのように, 生徒の興味関心を持続させるか, 実が収穫できるまでをどのように見通しを持たせるかなど, 掲示板に書き込むことでの協働学習を仕組



図 4-3-1 ゴーヤープロジェクトの掲示板

むにあたっては、参加校の教員同士が事前に顔を合わせて協議し、さらに Web 上の教員用会議室にて入念な打ち合わせを行い推進した。

まず前年度末に各校教員が顔を合わせて、次年度の進め方について協議する。その中で、中心となる教員（チーフ）を推薦し決定する。サーバーを持つ学校は、研究会の事務局として会計などの総務を行う。新年度に入り、チーフの呼びかけにより、沖縄の学校が生徒の事務局になり、沖縄からの「ゴーヤー栽培コンテスト」という発信により開始する。参加する学校は、掲示板で手を挙げて参加表明することで、沖縄の学校から種と意識付けの導入に使うゴーヤーのお菓子が送られてくる。そして、同時に植え、成長具合を報告したり、それぞれの地域の情報交換をしたりしながら、結実から収穫、そして最後のコンテストでの賞の発表まで、意識を継続させながら取り組む。

取り組む学校により参加する学習時間の位置づけは様々である。国語の時間に手紙の書き方を学習するねらいで参加したり、総合的な学習の時間や作業学習の時間での参加などである。

（８）支援機器の使用効果あるいは、指導の効果と支援機器の評価

遠隔協働学習のシステムとしては、専用クライアントを使うシステムであり、セキュリティに配慮できる。GUI に優れている。チャットや TV 会議もできる機能があり、様々な交流学习が仕組める。希望があれば、ホスト校を介しないで、参加校同士で独自に交流もすすめられる。クライアントが専用ポートを使用する関係で使用できない場合は、Web ブラウザからのアクセスもできる。以上の点において評価できるシステムといえる。

（９）まとめと今後の課題

コンピュータの OS やバージョン等に依存せず、より直感的で分かりやすい操作性のものという点で、本システムを推奨する。しかしながら、社会の変化に対応し、今後さらに多様なアクセスメディアに対応したシステムを検討していくことが課題である。

現状では、生徒たちの学習に生かされるかどうかは教員個々のスキルによるところが大きい。教員の専門性向上が必要である。指導者・支援者間の情報共有ネットワークとしての機能を担っていくことも、本システムの方向性として重要である。

本事例への付加情報

(以下は、研究協議会における本事例に関する質疑の内容である。活用事例を理解する上で注意が必要と思われた場合や、児童生徒の実態について補足が必要と思われたケースについて、実際の指導の様子を理解するために、基本的に録音した会議記録を書き起こしたものである。)

コメント1

知的障害だけではなく、かつてろう学校、知肢病が全部参加されていた時期もありますし、これは病弱からスタートしていますので、知的に限定しなくてもいいのかと思っています。

以上

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「特別支援学校におけるアシスティブ・テクノロジーの活用ケースブック－49例の活用事例を中心に学ぶ導入、個別の指導計画、そして評価の方法－」（2012/3）に記載された内容である。